



アウトバーンを エネルギー通りに

ハノーファー近郊のアウトバーン（高速道路）沿いをエネルギー通りにしようという計画が進んでいる。ソーラーパークと風車を組み合わせたエネルギーパークだ。

アウトバーンは一般車両は無料で、ドイツ国内を縦横無尽に網羅している。再生可能エネルギー促進法制定の立役者となった今は亡き政治家のヘルマン・シェアーは、以前からハノーファーやゲッティンゲンなどニーダーザクセン州の4都市を結ぶアウトバーン沿いを、エネルギー通りにするよう提唱していた。総計250キロメートルの地域だ。

アウトバーン沿いはもともと騒音のため、住居が近づくなく、新たに風車やソーラーパークを作る敷地は低い。周辺住民による反対運動も少ない。1990年代半ばから、ハノーファー市と周辺町村の行政は、再生可能エネルギー優先地域を決めており、敷地全体の約1%がそれにあたる。



アウトバーン沿いに立つ風車（ティンバータワー社提供）

2012年12月には、同市北部のアウトバーン沿いに高さ100メートルの木造の風力発電装置が建っている。既存の風車を最新型に置き換える作業も進んでいる。最新式は高さ180メートルや200メートルとなり、従来のものより70メートルほど高くなる。自治体の高さの規制を見直すとともに、住居との距離が適切であるか確認する必要がある。

基本的には全国のアウトバーン沿いにこのようなエネルギー通りを作ることが可能である。ハノーファー市と周辺町村は2020年までに、二酸化炭素の排出量を1990年比で40%削減することを決めており、そのためにもエネルギー通りは大きく貢献できるだろう。ちなみに日照時間が短く風の強いハノーファー周辺では、大型ソーラーパークは二箇所しかないが、風車はすでに250基ある。この風車ですでに10万世帯分の電力が供給されている。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

ドイツで子育て



ロジカルな考え方を養うといわれ、ポイント制度を導入しました。お手伝いや片付けをするとポイントを与え、明は好きに使えます。して当たり前のことにポイントをあげるなんて思ったけど、子どもに小さな報酬は必要とのこと。「ありがとう、助かったよ」という言葉も報酬になりますが、長続きしません。報酬には2種類あり、例えば「菓子」という外的なもの、「片付けたら別の楽しいことが待ってる」など内にあるもの。報酬は自分の活動の中で循環すべきで、お金や菓子は不十分です。することの理由を説明し、納得させるのも大事。社会はひとつのシステムなので、行動の因果関係を理解することがのちの社会生活に役立つとか。ポイント管理も自分でさせ、ゲーム感覚でします。

うちは1ポイントでテレビ1分、20で学校でマフィンを買っていいことにしました。集めるのも使うのも楽しいとあって、自分から進んで手伝いをするようになりびっくり。1000ためてDVDを見る！と意気込んでいます。1000の意味わかってるかな。